学校番号	３０５

平成 31 年度　地歴・公民科

教科	地歴科	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「世界史Ａ」　（東京書籍）						
副教材等	最新世界史図説　タペストリー　十七訂版						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史は、過去を学ぶ学問である。と同時に、現在について学ぶ学問である。
・現代の私たちが、当たり前に享受している、様々な権利、科学技術、自由な思想などを、過去の人々がいかに努力して、勝ち取ってきたかを学ぶことで、今後の自分たちの生き方、考え方を見つめる。

2　学習の到達目標

・地図資料、写真資料などに親しみ、違う時代、違う文化の国のイメージを自分の中に培う。
・近現代史を中心に、現代世界の、様々な地域や人々との関係を学ぶ。
・世界の歴史を学ぶことを通して、国際社会で活躍する自覚と素養を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心に、世界の歴史的経緯を学ぶことで、現代の国際社会、そこで起こっている、民族問題や、紛争などに対する課題意識を高める。また、それらから、国際社会に生きる責務を自覚する。	現代の社会が抱える、様々な問題･課題について考察し、国際社会の多面的変化を考慮して、その過程や、現状について適切に表現している。	近現代史を中心とした様々な資料、各国に現状を扱う資料から、テーマに沿った資料を選択、精査し、それらをわかりやすくまとめ、発することができる。	近現代史を中心とする世界の歴史について、気候条件や地理的条件、科学技術の発達・文化面も含めて、基本的な事柄についての知識を身につけている。
評価方法	ワークシート レポート 観察等	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート (主題学習) 世界史新聞の作成 旅程表の作成	定期考査 ワークシート (主題学習) 内容のまとまり

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	第1部　近・現代世界史の背景	・世界史へのいざない ・古代文明の成立 ・ユーラシアの諸地域世界 ・ユーラシアの交流圏	○	○	○	○ ○	a:自然環境がどのように歴史に影響してきたか、日本の歴史と世界の歴史とのつながりを考察し、地理と歴史のへの関心を高めようとしている。 b: ユーラシアの諸地域に形成された諸文明の特質と、それらがどのように交流し合っていたかについての関心を高め、考察し、過程や結果を適切に表現している。 c:必要な、あるいは有用な資料を収集し、その中から、適切な情報を読み取ったりまとめたりしている。 d: 人類の誕生以来、様々な地域で気候や風土に根ざした歴史と文化が気づきあげられたこと、また、ユーラシアの諸地域に形成された諸文明の特質と、それらがどのように交流し合っていたかについての知識を身につけている。	ワークシート 定期考査 振り返りシート
前期	第2部　成熟するアジアと世界へ向かうヨーロッパ	・アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ ・大西洋世界の変容とその波及	○ ○	○	○	○ ○	a: 中華帝国の繁栄、15 世紀～17 世紀の東南アジア、ヨーロッパ社会との接触による、アジアの変貌、大航海時代に始まる、ルネサンスや、宗教改革などのヨーロッパの大きな社会変化、さらにと、主権国家の成立について関心を高め、意欲的に学ぼうとしている。 b:ナポレオンによるヨーロッパ征服とそれに伴う、絶対王政からの解放、産業革命という大きな歴史の変化について過程や結果を地理的要素を踏まえて表現できている。 c:設定された時代やテーマに関して、様々な資料や、写真を収集してまとめ、それをわかりやすく提示することができる。 d:中華帝国の繁栄、15 世紀～17 世紀の東南アジア、ヨーロッパ社会との接触によるアジアの変貌、大航海時代に始まる、ルネサンスや、宗教改革などのヨーロッパの大きな社会変化、さらにその後のヨーロッパでの、主権国家の成立について学び、それらについての知識を身につけている。	定期考査 世界史新聞の作成
後期		・産業化社会の拡大と成熟 ・アジア諸国の変貌と日本	○	○	○	○ ○		定期考査 ワークシート 世界史新聞の作成

後期	第3部　現代の世界と日本	・帝国と民族の時代 ・二つの世界大戦の時代 ・冷戦と民族独立の時代 ・グローバル化の中の危機 ・21世紀に生きる	○ ○	 ○ ○ 	 ○ 	○ ○ 	a:第２次産業革命、帝国主義などによる民族間の対立、ナショナリズムの台頭など、急変する世界について、その背景や経過について関心を高め、意欲的に追求しようとしている。また、二つの世界大戦を経験したことによって、戦争という手段を使わずに平和を維持することが、人類の課題であることを認識するとともに、現実には２１世紀の現在も紛争が後を絶たないその原因や、背景について自らの問題として強い関心を持ち、追求しようとしている。 b:20 世紀以降の急激な変化、二つの世界大戦の原因やその影響、世界恐慌や、ファシズムの台頭、戦後の冷戦時代など、激動の 20 世紀について、過程や結果を日本との関わりを踏まえて考察し、表現できる。 c:20 世紀後半の高度な資本主義経済の発展は消費社会化をすすめ、さらにグローバル化した、その現状や影響について、様々な資料や、写真を収集してまとめ、それをわかりやすく提示することができる。 d: 第２次産業革命、帝国主義などによる民族間の対立、ナショナリズムの台頭など、急変する世界について、その背景や経過について学び、それらについての知識を身につけている。また、20 世紀以降の急激な変化、二つの世界大戦の原因やその影響、世界恐慌や、ファシズムの台頭など、激動の 20 世紀についての知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c: 資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。